

中学校国語科での引用指導についての教育効果[†]

金 隆子^{*1}・村松浩幸^{*2}・堀田龍也^{*3}・野中陽一^{*4}

米沢市立第二中学校^{*1}・信州大学教育学部^{*2}・玉川大学教職大学院^{*3}・横浜国立大学教育人間科学部^{*4}

ICT の急速な発展・普及に伴い、著作権および情報活用の観点から適切な引用指導が必要になってきている。そこで本研究は、中学校国語科において適切な引用方法やその目的の指導を試み、教育効果を検証した。Y 県 A 中学校において、2010-2012年の3年間で129名を対象に、毎年の指導計画に引用指導を試行的に組み込んだ。そして、2012年12月に著作権意識尺度を用いた著作権意識および鑑賞文での引用技能を調査した。調査の結果、1) 3年間指導を継続したグループは、1年生のみ指導および指導歴無しのグループよりも「F2著作権の尊重」因子得点が有意に高いこと、2) 3年間指導したグループは引用の技能評価において下位評価の生徒が有意に少ないこと、が確認できた。以上のことから、中学校国語科での引用指導は、著作権の尊重の意識向上に効果があり、指導の継続により引用技能が定着することが明らかになった。

キーワード：著作権，引用，国語科，中学校

1. はじめに

本研究は、中学校国語科での引用指導による著作権についての教育効果を明らかにすることを目的とする。

ICT の急速な発展・普及に伴い、著作権教育の必要性、重要性はより高まってきている。その中で、レポート作成でのコピー・ペースト、いわゆる「コピペ問題」などに見られるような、言語活動における適切な引用の知識や態度の指導も重要な課題である。こうした背景を受けて、2008年告示の中学校国語科学習指導要領において、著作権および情報活用の観点から引用の指導が追加された(文部科学省 2008)。例えば、引用の必要性として引用の方法や適切な量を示すと共に、

この指導が著作権の尊重・保護につながるなどが示されている。

一方、中学校での著作権教育の実態は、2010年の「学校における著作権教育アンケート調査 (JAPET 2010)」によると、技術・家庭科61.8%、社会、総合的な学習の時間61.3%に対し、国語科(以下、国語)では7.8%に留まっている。2004年での調査でも7.9%であり、国語での著作権教育がごく一部に留まったままでいる実態が示されている。2012年から改訂された学習指導要領が全面実施になったことも踏まえると、国語での引用指導に至急取り組む必要があるといえる。

こうした実態に対し、国語の引用指導についての教材も作成・公開されたり(著作権情報センター 2012)、実践も行われたりしているが(金 2013)、その教育効果の検証は十分に確かめられていない。そこで、3年間の国語の学習指導の中に試行的に引用指導を導入し、その教育効果を確認することとした。

2. 方法

2.1. 引用指導の概要

国語での各学年の指導計画の中に、引用指導を試行的に組み込んだ(表 1)。引用指導は、B「書くこと」に関する指導事項として、1) 引用の目的や方法を理解し、適切な許諾や引用ができるようにすること、2) 周囲の著作物を認識させ、著作権についての基本的な知識と態度を身につけさせること、をねらいとした。

2013年4月2日受理

[†] Takako KON^{*1}, Hiroyuki MURAMATSU^{*2}, Tatsuya HORITA^{*3} and Yoichi NONAKA^{*4}: Education Effects about the Quote Guidance of Japanese Language in Junior High School

^{*1} Yonezawa Second Junior High School, 2-2-5, Rinsenji, Yonezawa-city, Yamagata, 992-1461 Japan

^{*2} Faculty of Education, Shinshu University, 6 Nishinagano, Nagano, 380-8544 Japan

^{*3} Division of Teacher Profession, Graduate School of Education Tamagawa University, 6-1-1, Tamagawagakuen, Machida-city, Tokyo, 191-8610 Japan

^{*4} Faculty of Education and Human Sciences, Yokohama National University, 79-2 Tokiwadai Hodogaya-ku, Yokohama, 246-8501 Japan

表1 国語科での引用に関する指導内容

1学年		2学年		3学年	
指導概要	時月	指導概要	時月	指導概要	時月
名言、名句のネットからの引用方法	1 6	人物紹介パンフ作成での引用	1 5	読解で原文の適切な引用	3 6
スピーチ原稿作成での引用	1 6	鑑賞文で短歌を引用	1 6	解説文での適切な引用	1 6
書籍、Webからの引用方法	1 7	書籍紹介で引用法の確認	1 7	ICT活用と引用	1 7
読解で原文の適切な引用	1 2	プレゼン作成での引用方法	3 9	古典読解で原文の適切な引用	2 10
		古典読解で原文の適切な引用	1 10	意見文での適切な引用	1 1
合計	4	合計	7	合計	8

1年生では、スピーチ原稿作成においてWebからの引用方法を扱うことを試みた。さらに読解での原文の適切な引用など、計4時間の中に引用指導を組み入れた。2年生では人物紹介のパンフ作成での引用や、引用に着目しながら鑑賞文を読み味わった後に、短歌、俳句を引用した鑑賞文を書くなど、計7時間の中に引用指導を入れた。3年生では、さらにこれら指導を積み上げ、古典読解での引用や解説文、意見文での適切な引用を指導すると共にICT活用での引用についての指導など、計8時間の中に引用指導を組み入れた。

学習指導要領解説国語編では、1・3年生で引用指導が取り上げられているが、2年生では取り上げられていない。しかし、引用について知るだけでなく、定着させるためには、様々な題材に関連させて継続的に指導することが重要であると考え、そこで2年生においても題材の中で関連させて扱うことで継続性を持たせ、3年生でより発展的に学習できるように配慮した。また、引用を中心的に扱う題材以外は、引用の方法や目的の確認程度の扱いとした一方、年間を通し、継続的に指導を積み重ねていくようにした。なお、他の2学級でも同題材を扱ったが、引用指導は試行的に実施しており、学習指導要領の移行期間であることも考慮し、引用については特別な指導は追加しなかった。

2.2. 調査の手続き

著作権意識についての調査では、著作権意識尺度を用いた(村松 2013)。著作権意識尺度は、書籍やCDなど、「実体のある著作物を対象にした著作権に対する意識尺度(実体著作権意識尺度)」および「ネット上の著作物を対象にした著作権に対する意識尺度(ネット著作権意識尺度)」の2つの意識尺度で構成されるが、引用指導との関連が明確である実体著作権意識尺度(以下、著作権意識尺度)を用いることとした。

著作権意識尺度は、「本をコピーするときに、著作権に気をつけていると思いますか」など7項目からなる「F1著作権の意識」因子、「音楽CDを聞いた時、その曲を作った人の気持ちを考えたことがあると思います

表2 鑑賞文での引用技能の評価基準

評価	評価基準
A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の文章と引用文が明確に区別されている。 引用元の情報が記載されている。 自分の文章と引用文の主従関係が適切である。 引用することで、自分の主張が明確になっている。
B	<ul style="list-style-type: none"> 自分の文章と引用文が明確に区別されている。 引用元の情報が記載されている。 自分の文章と引用文の主従関係が適切である。
C	<ul style="list-style-type: none"> 自分の文章と引用文の区別が明確ではない。 引用元の情報に記載が十分ではない。

か」など、5項目からなる「F2著作権の尊重」因子の2因子12項目で構成されている。

引用技能については、3年時での古典読解での鑑賞文を対象に、実践者(執筆者)と研究者で検討した評価基準に基づき、比較した(表2)。評価基準では、自分の文章と引用文の区別および主従関係の適切さや、引用元の情報の記載など、引用の条件を満たしていれば、概ね満足できるB評価と設定した。さらに、引用条件を満たすのみならず、引用することで自分の主張が明確である表現ができていれば、質的に高いと判断し、十分満足できるA評価と設定した。

実践は、Y県A中学校において、2010年6月-2012年12月の3年間で実施した。引用指導は、学年全体5組151-152名中、実践者が担当した、2010年度1年生3組94名、2011年度2年生3組95名、2012年度3年生3組95名を対象に実践した。

3. 結果と考察

3.1. 実践の概要

1年生では、「豊かな言葉 光と風からもらった贈り物(高橋 2012)」から開始した。この文章は、宮澤賢治の詩「高原」を引用している。五行の詩にこめられた思いに寄り添いながら、筆者の詩の読解を示すことで引用の効果を理解させた。また、インターネットで調べた名句・名言をもとにしたスピーチ原稿を書かせた。同時に、書籍やWebページからの引用の方法および表記法を確認し、説明文を書く活動につなげた。

2年生では、1年生での詩の引用と同じように、鑑賞文や引用を着目させながら鑑賞したり、解説文、意見文において適切な引用をさせながら書かせたりする指導をおこなった。また、短歌を引用しながら鑑賞文を書かせると共に、相互評価や全体発表も行った。プレゼン作成では、テーマを決め言葉を集める際に、適切な引用ができるように指導をした。

3年生では、俳句の鑑賞文で、引用に着目しながら鑑賞文を読み味わうことからはじめ、好きな短歌・俳句を引用させ、鑑賞文を書かせた。さらに相互評価や全体発表後に、各自に短歌・俳句を創作させた。そして引用の表記法に従い、選んだ作品の作者についての紹介と作品についての鑑賞文を書かせた。また、ICT活用では、Googleでの画像検索から写真を一枚選ばせ、引用をさせながら簡単な説明文を書かせた。

3.2. 指導年数による著作権意識の比較

2012年12月に3年生152名を対象に調査をした。欠損のある回答データを除外し、141名(3年間指導歴無し12名、指導歴有り129名、有効回答率92.8%、男子71名、女子70名)を分析対象とした。5件法での回答結果を、まったく思わない1点、あまり思わない2点、どちらでもない3点、少し思う4点、かなり思う5点

に点数化した。

尺度の妥当性、信頼性を確認するために、因子分析を行った。まず、各下位尺度項目の天井効果とフロア効果を確認した。平均点と標準偏の和が5以上である場合を天井効果としたところ、12項目中3項目において天井効果が認められたため、分析から除外した。

次に、主因子法によって初期解を得た後、ガットマン・カイザの基準、すなわち固有値1.0以上で減衰率が比較的大きくなる直前となる因子数を採用し、プロマックス回転を施した(表3)。分析の結果、村松の尺度同様に、「F1著作権の意識」、「F2著作権の尊重」の2因子構造となっていることが確認できた。そして各因子の α 係数を確認したところ、F1(0.798)、F2(0.707)と一定の内的整合性を持っていることが確認できた。以上のことから、著作権意識尺度を用いた分析は信頼性があると判断し、分析を進めた。

全体の分析結果を表6に示した。男女間について、t検定をしたところ、「C09 音楽CDを利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか」の下位尺度項目のみ5%水準で有意差が確認できたが、他の因子や項目では有意差は確認できなかった。

次に指導年数でグループ化して、グループ間の比較

表3 著作権に対する意識の因子構造

項目	F1	F2
	著作権の意識	著作権の尊重
C14 写真やイラストを利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか	0.867	-0.057
C01 日頃から著作権に気をつけていると思いますか	0.682	-0.057
C03 本をコピーするとき、著作権に気をつけていると思いますか	0.671	0.027
C09 音楽CDを利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか	0.655	0.005
C13 映画DVDを見たとき、その映画を作った人の気持ちを考えたことがあると思いますか	-0.122	0.805
C06 音楽CDを聞いた時、その曲を作った人の気持ちを考えたことがあると思いますか	-0.069	0.599
C12 著作権のことをニュースや新聞で報道していると、関心を持つ方だと思いますか	0.26	0.466
C11 著作権のことを友達に説明できるとと思いますか	0.257	0.391
C08 授業などでの調べ学習で本を利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか	0.298	0.315

表4 因子間相関

	F1
F1 著作権の意識	
F2 著作権の尊重	0.588

表5 著作権意識尺度の信頼性

F1 著作権の意識	0.798
F2 著作権の尊重	0.707

表6 3学年全体の著作権に対する意識

著作権意識尺度	全体		男子		女子		t 値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
F1 著作権の意識	3.50	0.88	3.38	0.89	3.62	0.86	1.59
C14 写真やイラストを利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか	3.55	1.09	3.45	1.08	3.66	1.10	1.12
C01 日頃から著作権に気をつけていると思いますか	3.29	1.14	3.23	1.16	3.36	1.12	0.69
C03 本をコピーするとき、著作権に気をつけていると思いますか	3.46	1.13	3.35	1.18	3.57	1.07	1.15
C09 音楽CDを利用するとき、著作権に気をつけていると思いますか	3.70	1.09	3.51	1.15	3.89	1.00	2.09 *
F2 著作権の尊重	3.36	0.83	3.24	0.77	3.48	0.87	1.75
C13 映画DVDを見たとき、その映画を作った人の気持ちを考えたことがあると思いますか	3.36	1.15	3.25	1.20	3.47	1.10	1.12
C06 音楽CDを聞いた時、その曲を作った人の気持ちを考えたことがあると思いますか	3.75	1.07	3.62	1.13	3.89	1.00	1.48
C12 著作権のことをニュースや新聞で報道していると、関心を持つ方だと思いますか	3.21	1.12	3.06	1.05	3.36	1.17	1.61
C11 著作権のことを友達に説明できるとと思いますか	3.11	1.19	3.01	1.18	3.20	1.20	0.93
	n=141		n=71		n=70		*p<.05

表7 引用指導年数による著作権意識の比較

因子	①(3年間全て)		②(2年生以上)		③(1年生のみ)		④(担当無し)		df=3, 137		多重比較(LSD)
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	Ms	F	
F1著作権の意識	3.69	0.70	3.52	0.97	3.17	0.73	3.38	0.82	1.14	1.49	
F2著作権の尊重	3.70	0.77	3.39	0.80	2.93	0.86	2.90	0.63	3.29	5.24	①>③**, ④*
	n=32		n=78		n=19		n=12		*p<.05, **p<.01		

をした。生徒のクラス替えや教科担当替えに伴い、授業を受ける生徒が変わるため、3年間指導した生徒(グループ①32名)、2年生以上で1年間または2年間指導した生徒(グループ②78名)、1年生の時のみ指導した生徒(グループ③19名)、指導歴無し(グループ④12名)の4グループに分け、一元配置分散分析をおこなった(表7)。その結果、「F2著作権の尊重」因子($F(3,141)=5.24, p<.01$)において主効果が確認できた。LSD法による多重比較をおこなった結果、グループ①の「F2著作権の尊重」因子の結果が、グループ③よりも1%水準、グループ④よりも5%で有意に高いことが確認できた。ただし、①・②及び③・④の間では有意な差は確認できなかった。

以上の調査と共に、中学校での引用、著作権、ネットの著作権の授業の受講歴についても調査した。引用については、国語85.4%に対し、次は技術・家庭1.6%。著作権では、国語60.5%に対し、技術・家庭7.9%、社会4.8%。ネットの著作権では、国語46.1%、総合19.1%と、全項目において国語が最も高い割合を示した。生徒の記憶に国語での関連内容の受講歴が最も残っていたことから、今回調査した著作権意識の中で、「F2著作権の尊重」因子の結果に与えた影響は、国語の授業が最も大きいと考えられる。この結果と著作権意識の結果を合わせると、指導年数が長い生徒のグループほど著作権の尊重の意識が高く、引用指導は、中学生の著作権の尊重の意識向上に効果があると考えられる。

3.3 指導年数による著作権の引用技能の比較

引用技能の評価は、前述の評価基準に基づき、実践者が評価をした。なお、3年生で担当した生徒のみを対象にしたため、②で2年生のみ担当した生徒16名および③・④の生徒は評価していない。また授業当日、風邪等の欠席も有り、②は78名中、46名を対象とした。①・②2グループに対し、 χ^2 検定の結果(表8)、C評価で有意な差が確認できた($\chi^2(2)=4.65, p<.05$)。残差分析の結果、①では下位となるC評価が5%水準で有意に少なく、②では逆にC評価が有意に多いことが確認できた。以上の結果から、引用指導の継続により、引用技能が定着すると考えられる。

表8 引用指導年数による引用技能の比較

評価	①(3年間全て)			②(2年生以上)		
	人数	残差		人数	残差	
A	10	0.72		11	-0.72	
B	22	0.52		29	-0.52	
C	0	-2.13 *		6	2.13 *	
	n=32			n=46 *p<.05		

4. おわりに

本研究は、中学校国語科での引用指導の教育効果を明らかにすることを目的とした。

中学校3年生を対象に、引用指導を試行的に実践した結果、1)3年間指導を継続したグループは、1年生のみ指導および指導歴無しのグループよりも「F2著作権の尊重」因子得点が有意に高いこと、2)3年間指導したグループは引用の技能評価において下位評価の生徒が有意に少ないこと、が確認できた。以上のことから、中学校国語科での引用指導は、著作権の尊重の意識向上に効果があり、指導の継続により引用技能が定着することが明らかになった。

付 記

本研究は、一般社団法人私的録画補償金管理協会の寄附金による事業の一つとしておこなわれた。

参 考 文 献

5分でできる著作権教育. 著作権情報センター
<http://chosakuken.jp/> (最終確認 2013.03.29)
 金 隆子 (2013) 中学校における「引用」の授業. 著作権教育の第一歩, 三省堂, pp.90-99
 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 国語編. 教育図書: 51
 村松浩幸 (2013) 中学校における創造性を重視した著作権教育の提言. 学習情報研究2013年5月号, 学習ソフトウェア情報研究センター: 40-43
 日本教育工学振興会 (2010) 学校における著作権教育アンケート調査. 著作権情報センター: 24
 高橋世織 (2012) 光と風からもらった贈り物. 国語1, 光村図書, pp.54-59

(Received April 2, 2013)